



ハイライト

- 第 2 回沖縄県移住受入協議会が開催され、県、代表市町村、受託事業者より平成 28 年度の活動報告がなされました。
- 沖縄県移住促進事業に係る座談会レポート《前編》を送ります。「地域の世話役養成塾」、「移住フェア、移住相談会」や「モニターツアーへ」等の取組について話し合いました。

目次

- 第 2 回沖縄県移住受入協議会開催 ……1
- 沖縄県移住促進事業に係る座談会レポート《前編》 ……2
- ひと紹介コーナー ……4

第 2 回沖縄県移住受入協議会が開催されました！



3 月 27 日(月)に平成 28 年度第 2 回沖縄県移住受入協議会が開催されました(於:沖縄県南部合同庁舎)。

県による平成 28 年度の移住定住促進事業の実績報告と平成 29 年度事業計画の説明後、受託事業者である株式会社ルーツの平田さんより平成 28 年度移住定住促進事業報告がありました。

続いてうるま市、宮古島市、渡名喜村の各移住担当者より今年度の取組報告がなされました。また全国の移住定住事業の動向と沖縄県の現状及び課題について NPO 法人ふるさと回帰支援センターの嵩さんより説明がありました。



今後の予定

【移住フェア】

- 6 月 11 日(日)
山口・九州・沖縄 暮らしフェア
(東京)
- 7 月 29 日(土)
ふるさと回帰移住フェア(大阪)
- 9 月 10 日(日)
ふるさと回帰フェア(東京)

【沖縄移住相談会】

- 6 月 9 日(金)
- 6 月 10 日(土)
- 9 月 8 日(金)
(東京)
- 11 月 4 日(土)
(大阪)

【第 3 回沖縄県移住受入協議会】

- 6 月末予定

平成 28 年度沖縄県移住定住促進事業に係る座談会レポート《前編》

～ 地域の世話役養成塾開催と移住体験ツアー、 移住フェア・移住相談会への取組を通して ～



3月27日に開催された沖縄県移住受入協議会終了後、県庁会議室に於いて県と各市町村担当者、受託事業者等が集い座談会を行いました。28年度における市町村ごとの感想や昨年度との比較、今後の課題や独自の取組について等幅広く語り合いました。今後の移住対策に取り入れられるヒントもあるかと思しますのでぜひ参考にさせていただきます。

—参加者—

沖縄県地域・離島課 金城明子さん	渡名喜村総務課 桃原さん
久米島町企画財政課 島袋さん	(株)ルーツ 平田さん(受託事業者)
石垣市企画政策課 遠藤さん、後上里さん	ふるさと回帰センター 嵩さん(受託事業者)
宮古島市まちづくり振興班 友利さん	S&L United 株式会社 島袋さん(おきなわ移住の輪 —結—運業者)
国頭村商工観光課 新垣さん	司会 沖縄県地域・離島課 又吉班長 (以下、敬称略)
国頭村地域おこし協力隊 東さん	
うるま市企画政策課 伊佐さん	

—まずは金城さん、今年度の移住対策事業を通して昨年度との違いや感想を話して下さい。



金城 昨年度の取組との大きな違いは、新しく「地域の世話役養成塾」を開催したことだと思います。移住促進の為には自治体だけでなく地域の受け入れ体制作りも重要で、そこを円滑にする世話役を今年度は11名養成しました。養成塾では参加者の皆さんが講義だけでなくワークショップでも意見を活発に出していたのが印象深かったです。今後の活躍に期待したいです。

今年度は11名養成しました。養成塾では参加者の皆さんが講義だけでなくワークショップでも意見を活発に出していたのが印象深かったです。今後の活躍に期待したいです。

「地域の世話役養成塾」を振り返って ～人選と養成後の活動に期待すること～

—各市町村でどういう方を推薦したのか、また今後どんな役割を果たしてほしいかお聞かせ下さい。

友利 宮古島市では自治会長さんや農業・漁業といった地域産業に係る、いわゆる地域の中心人物が世話役として適していると



考えて上里さんを推薦しました。上里さんはご自身で鍾乳洞施設を運営する等していることもあり、地域、観光客、移住対象になりそうな方と触れ合う機会が多いので適した人材だと思います。

—石垣市は公募でしたね。世話役4名というのは一番多かったんですが、同じような役割を個々に期待しているのか、何らかの役割分担を考えているのかお聞かせ願います。

遠藤 市民から公募した理由は、講座を受けに4回も石垣から那覇まで行くので、意欲のある方に受講してもらいたかったからです。全員が市街地に居住している方なので今後の活動は市街地が中心になると思いますが、来年度以降に世話役になる人とも繋がって活動を広げてほしいと思っています。また、市街地以外に居住している方であれば、養成塾で得たことをすぐに居住地で活かせるのではと思いますので、今後も公募なのか市街地以外に居住している方から推薦するのかについては、今後の検討課題です。



—国頭村では地域おこし協力隊を世話役に推薦されましたね。なぜこの方を推薦されたのか、またご本人もいらしているので感想をお聞かせ下さい。



新垣 国頭村は人口規模が小さくて、何かと面倒を見たり世話をやくような役割をする方は地域ごとにいるのですが、村全体としての世話役というのはこれまでいませんでした。そこで地域おこし協力隊が移住定

住促進業務に係っていることもあって、東さんを推薦しました。今後東さんから各集落の世話役を担っている方に繋がって活動が広がってほしいと思っています。

東 重要な役を仰せつかったと思いますけれど(笑)。移住希望

隊という立場の人には話しやすいというのがあると思います。移住希望の方と地域の方との間で橋渡しになれると良いなと思っています。

移住体験ツアーの企画方針と実施後の感想、見えてきた課題とは

——国頭村では昨年度の移住体験ツアーを通して見えてきたのが住宅不足という課題だったと伺いました。その後進展はどうですか？

新垣 国頭村では今年度村内の空き家実態調査を行い、次年度は推進、再来年度は活用していく予定です。また移住者も入れる村営住宅を今後3年かけて整備する計画もありますので、少しずつではありますが住宅不足は解消されていくのではと思っています。それから小中学校の教員向け住宅に空きがいくつかあるので、整備して子育て世帯に提供する計画も他部署から挙がってきています。

——久米島町では移住体験ツアーを医療福祉関係の参加者に絞って企画されていましたがどうしてですか？



島袋(久米島町) 対象者を絞った経緯は今年度取組んだ移住・定住推進アクションプランと係っていて、そこで島に必要な人材についての議論があり、医療福祉系が足りないという話になりました。そこでモニターツアー

ーでその関係の人が来るきっかけを作りたいというのがあります。もう一度ツアーをやるなら募集期間を長くしてより多くの参加者を募りたいこと、医療や介護の職場に入って実践的な体験を参加者にして頂くと良いかと思っています。

——石垣市でも参加者の職種を絞って実施されましたね。その経緯と見えた課題があればお話し下さい。

遠藤 もともと石垣市は知名度が高く、広く募集すると非常に多くの方からの応募があると思われたので、参加者の職種を絞ったという経緯があります。また現在は、県立病院の移転工事や小学校の改築工事など建築ラッシュで、建設作業員の方々が賃貸アパートに居住しているため、今後3年程度は住宅不足が続くと言われています。そういった特殊な状況の下で幅広く移住体験ツアーを実施しても、現実的な移住には結び付きにくいと考えました。そこですぐに来てほしい保育士資格を保有している方々を対象にしました。保育士として働く前提なので直接保育園へ行って園長先生と話をし、園児と直接触れ合うなど、ツアーの企画自体は立てやすかったです。ツアー後の参加者からの反応はそれぞれで、十分な内容であったという方もいれば、もっと詳しく見たかったという感想もありました。市としては、ツアー内容を詰め込みすぎたという反省もあります。事前に参加者の希望を聞いて、参加者が複数のプランから選べるようにしてもよかったかもしれません。

ことができました。それをきっかけとして移住者の為の仕事づくり

の方が地域の方には話しづらくても、僕のような地域おこし協力——宮古島市では移住体験ツアーを農業漁業体験を中心に行いましたが、その経緯を教えてください。

友利 市の総合戦略の中に農業漁業に重きを置くようにありまして、農業漁業の体験ツアーを移住のきっかけとしようという意図があります。宮古島市では農業の基盤整備も積極的に進めますし、沖縄県による新規就労者などの良いメニューも積極的に利用したいというのがありますので。宮古島に一次産業の方を呼び込みたい、担い手不足を補いたいという目的があります。

——実は県が最初に想定していた移住体験ツアーのイメージは一番宮古島市が近かったんですよ。市町村でいうと離島過疎地域をターゲットに考えていて、宮古島市では農業漁業に重きを置いたからこそ、移住体験地が過疎地域中心になったということですか。

友利 そうですね。ツアーを農業漁業に絞ったというのは、人が平良のほうに集中してしまうとその周辺が空洞化、さびれてしまうので、過疎地域へ人を呼び込む目的もありますね。

移住フェアや移住相談会へ参加してみたの感想、今後の課題と対策について

——今年度フェアや相談会へ参加された市町村の感想や今年度工夫したこと、次年度やりたいことをお話し下さい。

伊佐 うるま市は今年度が初めての参加になりました。座談会や個別相談で移住希望の方の相談に直接応じることで、求めている情報や移住先でどういった生活をイメージしているかをある程度把握することが



が出来たと思います。そこで多かったのが移住先での仕事についての質問で、他にも子育て環境や住居についての質問がありました。参加者からは県内の求人情報を都内で閲覧出来るようにしてほしい、移住希望者向け合同企業説明会、移住に関する経済的な支援(求職等の来沖費用など)が欲しい等の要望がありました。移住先での雇用情報が多く求められており、市で実施している就労支援事業との連携による情報提供が今後の課題となりました。また興味を持たれる方への空き家等の情報提供が課題となりました。



桃原 渡名喜村では昨年度はまだ移住対策に取り組んでいなかったり、既にあった多用途住宅も十分に活かしていない状況にありました。そういう状況下で初めてフェアに参加して、他の市町村や他府県のやり方やパンフレットなどを直接見て色々なノウハウを知ることができたことは大変収穫だったと思います。また移住希望の方と直接触れ合えてニーズの傾向などを知ることが出来ました。会場で渡名喜村を知って頂くことは出来たのですが、同時に仕事はあり

はどうやったらいいかと考え、まずは地域おこし協力隊制度を利用して 28 年度に 2 名を採用しました。そういう活動を経て渡名喜村の認知は高まってきたと思いながら今年度の沖縄県移住相談会に参加したのですが、本島やほかの有名な離島などに既に照準を合わせて来場してくる方が多くて渡名喜村がその選択肢に入るのは難しい状況でした。来年度からの課題としては渡名喜村の認知度をもっと高めることが必要だと思っています。

——なるほど全国フェアと沖縄のみの相談会では違いを感じたことですが、国頭村ではどうでしたか？

新垣 そうですね、渡名喜村さんがおっしゃったように知名度では国頭村も高いとはいえないと思います。本島都市部からも距離があり情報発信する場もなかなかありませんでした。そういう状況だったので昨年度と今年度に参加したフェアや相談会では来場者の方が国頭村を目的にいらっしゃるというよりはついでにブースに来て下さる方が多かったと思います。そこでいかに国頭村をアピールしていくかということをしていただけでも、移住フェアで出会った方が後日、別の移住相談会のブースを訪れて下さる方もいたり、新しい繋がりがもてきたと思います。

——その方とは今でもつながっていますか？

東 いえ、その方とはその後具体的にはなってないのですが、2 月の相談会でお会いした別の方で、近々国頭村へ移住を決めた方もいらっしゃいます。住むところが決まったとご連絡も後日頂きました。



——久米島町は 5 月から島ぐらしコンシェルジュを置いたり移住相談会へも積極的に出てきているんですが、最新の情報を教えてくださいませんか。

島袋(久米島町) 最新ですと 20 名が移住決定していて、そのうち既に移住した方は半分ほどです。移住相談会でメールアドレス等連絡先を来場者さんに聞いて、イベント後にメルマガを月 1 で配信しているんですね。メルマガを送るとお礼のお返事や質問などをされる方がいらしたりして繋がりが出来るんですよ。そうやって何度かやりとりしているうちに久米島を一度訪れてみようとか、



それが繋がって移住しようかなという気持ちになったり。いわゆる「移住までの導線をひく」と言っているのですが、市町村さんはそういう意識をもって相談会へ参加されるのも一つの方法だと思います。

——石垣島は勝ち組といえますか(笑)、移住者に大変人気だと思いますけれども、いかがでしょう。

遠藤 石垣島は観光地としてよく知られていることもありますので(笑)。全国規模のフェアですと、他県の市町村と比べられて、離島であるために敬遠されてしまうことがありました。一方、沖縄県のみ相談会だと来場者も離島に関心を持っているという前

ますか？と聞かれることが多く、そういった新たなニーズに気づく提がありますので、熱心な相談者の方々が多かったという印象です。移住相談会をきっかけとして移住された人数は分かりませんが、11 月の相談会へ来場されたご夫婦には奥様が保育士ということでしたので保育士移住の渡航費助成を紹介しました。それも一つのきっかけとして、つい先日石垣島へ移住したとご連絡を頂きました。移住相談会後も、何組かの方とはメール等でやりとりはさせて頂いています。

終わりに

移住促進の各種メニューへの市町村の取組方や実施結果について話して頂きましたが、そこでの様々な違いや共通点、今後皆さんの市町村でも活かせるような工夫事例が見られたかと思えます。次回 10 号では座談会《中編》として、「おきなわ移住の輪」サイトと Facebook の反響について、県内外の移住促進事業の動向、沖縄への移住者希望者の動向を中心に語られた座談会内容をお送りする予定です。

ひと紹介コーナー

今年度の県の移住担当者が変わりましたので紹介いたします！

県地域・離島課 主査
小橋川 卓也



今年度より、移住関係業務を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。これからみなさんと移住施策に向けた課題を共有し、共に解決していきたいと思っておりますので、お気軽にご相談いただければと思います。また、今年度も昨年度に引き続き、移住相談会や移住体験ツアーなど様々な事業を予定しておりますので、特にまだ参加したことがない市町村におきましては、積極的に参加していただきますようよろしくお願いいたします。

県地域・離島課 移住コーディネーター
黒川 祥子



今年度より新規に設置された移住コーディネーターを務めさせて頂きます。主な業務は移住希望者からの相談対応と移住に係る情報発信です。これから相談会や情報サイト等を通して移住希望の方が必要とする情報を適切にお届けしたいと思います。またそこで得られたニーズを市町村の移住取組に活かして頂けるように情報のシェアに努めたいと思っています。